

# 新世界の住人

内臓脂肪が多いガリノツポ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

もし、新世界が誕生していたら。もし、キラの企みが最後まで行き着いていたら。そんな話。

目次

## 新世界は煌びやかに

世界は変わった。年寄りによくそう語る。曰く、21世紀の初期に世の中を一変させる事件があったのだとか。

人によつては、あたかもそれが神話であるかの様に話す人もいる。それくらい凄いことなのだろうと、察することはできるが僕にはそれが限界だ。

なぜなら変わったといつても、それから50年しか経っていない現在。そこまで差異という差異も無いのだろうと、僕たち『新人類』は思う。

『キラ』。それは今現在この国でもっとも信じられている、神である。この神がこの国で十字に縛り付けられた聖人より神聖視されているのは、ある一点。そう、実際に存在が確定していることだ。

曰く、至高神。曰く、現人神。曰く、世界の支配者。

ーーーーー曰く、新世界の神にして、新世界の創造主。

国民の7割がこの神の存在を信じているわけだが、その理由はこの神が持つ力によるところが大きいと、老人たちは言う。

悪人の断罪。かの神が行うことはそれだけだ。しかし、それがこの世界を変えたと『旧人類』は語る。だが、悪事を働けば即座に神の鉄槌が下るなんて僕たちにとっては、当たり前の常識である。

ーーーーー悪いことをしたら死ぬ。それは別段おかしいことではない。死だなんて言葉のせいで大袈裟に聞こえるかもしれないが、これはさしたる問題ではない。死にたくなければ、悪いことをしなければ良いだけの話なのだから。

そう、とどのつまり『新世界』はキラ中心に回っているのである。

「はあ、進路調査表がついに配布されちゃったよ。一体なにを書けばいいんだよ。なあ大地、お前は将来のことは決まってるか？」

「いいや、志望大学を書くので限界だよ。それ以上はまだわからない

い。」

「志望校書けりや十分だろうがよ。まったくよ、こちとら華の高校生1年だぞ。まだ学園生活を楽しむ時間だったのによ。なんで教師達は先のことばっか気にしてんのか、俺にはさっぱりわからん。」

季節は夏も過ぎて秋。僕個人としては、サンマを初めとした魚類が美味しくなるのが嬉しい時期だ。

そんな中、どうにも進路に不安を持つクラスの隣人と進路について話しをしていた訳である。

「まったく、そんなこと言っているとキラに裁かれるよ?」

「そうは言うけどな大地?今時、企業だつてキラに殺されない様に必死なんだぜ?ちよーつと詐欺紛いのことをしたら、すぐこうだぜ?」

自分の首を親指で切るジェスチャーする隣人は、絶対に死なない職業に就きたいとボヤいていた。

「大丈夫さ。毎日堅実に、ゆっくりと生きていればキラに殺される心配もない。大事なのは人間どれだけ誠実であるかだよ。」

結局のところ、ズルをするからいけないのだ。ルールさえ守っていればなんの問題もない。キラが見通すこの世界は真面目な人にとっては生きやすい世界だ。人に酷いことをすれば裁かれる訳だから、正攻法が一番強い。だから僕にとつてはそこまで生きにくい世界ではなかった。

「……お前、確かキラ教徒じゃなかったよな?」

「うん、別段信仰してる訳じゃないよ。」

「俺が思うに、お前、そんじよそこらの信徒よりよっぽどかキラに気に入られる生き方してるよ。」

馬鹿にすると言うよりは、飽きた物言いで彼はそう言った。

「そうかな?」

それに対して僕————朝上<sup>あさがみ</sup> 大地<sup>テラ</sup>————は適当に返事を返した。

だが、キラが支配するこの世の中。天国とはとても呼べない。夢を  
持てない若者はごまんといふし、毎日彼等は醜い争いをしている。そ  
れは大人もそうで、キラに裁かれない範囲で汚いやり取りをしている  
訳である。

そして、キラがいるからといって犯罪がなくなる訳じゃない。たし  
かに、かの神が降臨してから、日本の犯罪件数は半数どころか4分の  
1にまで減少した。だが、それ以上は30年経っても減らせなかった  
のである。

例え死が待っていたとしても、人間は目先の利益や欲望に捕らわれ  
罪を犯す。また、衝動に任せたまに断罪される者もいる。結局のとし  
ろ、人間は成長できていないのだ。

それでも、『旧人類』たちは世界は良くなったと言う。それが本当な  
らば、一体どれだけ『旧世界』は酷い有様だったのだろう。まさか、戦  
時中だったとでも言うのだろうか。

社会が抱える問題は、あのキラでさえ解決できていない。これをど  
う見るかは人によるだろう。

人間の業はそれ程までに大きいのか。

————キラは決して神なんかじゃないのか。

どちらにしろ、僕は今日を真面目に生きるだけだ。